自立活動学習指導案

日　時　令和〇年〇月〇日（〇）
　　第５校時
学校名　小学校
対　象　第３学年
会　場　プレイルーム
授業者　〇〇　〇〇

１　単元名　ぼくのニセモノをつくろう

２　単元の目標

自分の好みや得意・不得意、性格について考えることができる。

３　指導観

(1)　単元観

本単元は、特別支援学校学習指導要領　小学部・中学部学習指導要領（平成 29 年４月告示）第７章　自立活動　第２　内容

> ３　人間関係の形成
> (3) 自己の理解と行動の調整

を受けて設定した。

上記３（3）では、障害の特性による認知上の困難や経験の不足等から自己の理解が十分でない児童に対し、体験的な活動を通して自分の得意なことや苦手なことを知り、他者との違いや自己の特性についての理解を深めていく。

以上の項目を選定し、指導内容を設定した。

(2)　児童観

個人情報のため、当日に配布予定。

(3)　教材観

本単元は、『ぼくのニセモノをつくるには』（ヨシタケシンスケ著，ブロンズ新社，2014）という絵本を取り扱う。本著は主人公が自分のやりたくないことをやってもらうために、ロボットに自分のニセモノになってもらうことを計画する。ロボットに「あなたのことをくわしく教えてください。」と言われ、自分のことを考えていく内容である。ロボットに自分のことを説明していくという本書の過程をなぞり、それぞれ自分の性格をまとめた絵本を作ることで、自分のことを言語化し、自己理解を深めていく。特別支援教室退室に向けて、自己の長所を伸ばしたり、苦手なことへの対処法を考えたりすることにつなげられるようにしていく。

４　年間指導計画における位置付け

（1）特別支援教室退室に向けた指導目標

・自己の特性に気付き、周囲の状況に応じて行動することができる。

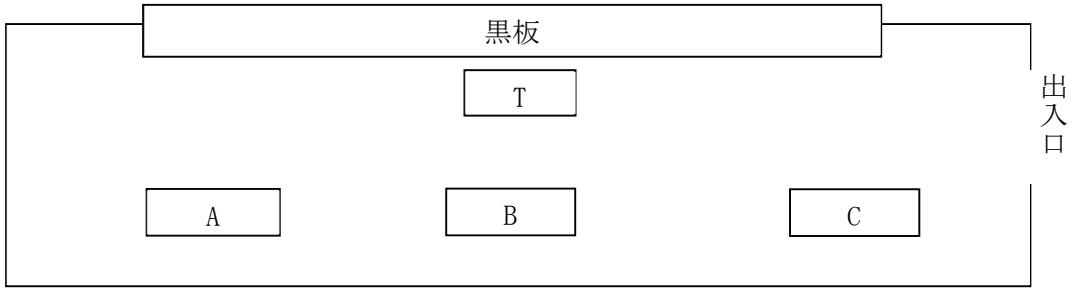
（2）特別支援教室退室に向けた指導計画

	単元名	○ねらい　・活動内容	時数
第１学期	自己紹介すごろく	○　自分の好きな食べ物や遊びなどを他者に伝える。 ○　相手の好きなものや苦手なものなどを知る。 ・　すごろくで止まったマスに書かれている質問に答える。自分のことを話し、相手の話を聞く。	１時間
	いろいろな感じ方	○　自分の感じたことを言葉にし、好き嫌いを数値化して表すことができる。 ○　自分と他者の感じ方や好みはそれぞれ違うことに気付くことができる。 ・　触わった感触、聞いた音の感じ方を言葉で表現し、好き嫌いを発表する。 ・　友達の表現の仕方や好みを聞き、自分と比べる。	３時間
	自分の気持ちについて知ろう①	○　気持ちを表現する言葉を知り、自分の気持ちを言葉で表現することができる。 ・　気持ちを表す言葉集めをする。 ・　ぼうずめくりやババ抜きなどの活動の中で自分がどのような気持ちになったのか、選択肢から選んで表現する。	３時間
第２学期	自分の気持ちについて知ろう②	○　色々な場面で、自分の気持ちがどうなるのか数値化したり、言葉で表現したりすることができる。 ○　同じ場面でも自分と他者の気持ちはそれぞれ違うことに気付くことができる。 ・　提示された複数の場面において、それぞれ自分がどのような気持ちになるのか数値化する。 ・　その数値にした理由を伝え、友達の数値と比べる。	４時間
	ぼくのニセモノをつくろう（本単元）	○　自分の好みや得意・不得意、自分の性格について考えることができる。 ・　絵本作りを通して、自分の好きなものや嫌いなもの、得意なことや苦手なこと、自分の性格を考える。	４時間
第３学期	ＳＳＴマスターになろう	○　自分の良いところ、課題となるところなどの自分の特性を捉えることができる。 ・　自分の良いところや苦手なこと、やりがちな行動に気付き、性格や特性について考え、自分のキャラクターを作る。 ・　具体的な場面から、自分に合った対処法を考える。その対処法を自分のキャラクターが使える技としてカードを集める。	５時間

５　単元の指導計画（全４時間）

	目標	○学習内容・学習活動
第１時	・　絵本の内容を理解し、自分の家族構成や好きなもの、嫌いなものについて表すことができる。	○　本単元の意図を知り、意識付けをする。 ・　絵本の読み聞かせを聞き、内容を理解する。 ・　自分だったら、どのようなことをロボットに代わりにやってほしいのかを考える。 ・　名前や家族構成などの基本的な部分をワークシートに記入する。 ・　好きなもの・嫌いなものについて考え、ワークシートに記入する。
第２時	・　自分のできることやできないこと、得手や不得手について考えることができる。	○　自分のできることやできないこと、得意なことや苦手なことについて考える。 ・　提示された内容について、自分ができることとできないことについて分ける。 ・　できること・できないことを踏まえて、自分の得意なことや苦手なことについて考え、ワークシートに記入する。
第３時	・　自分の性格、タイプについて考えることができる。	○　自分の性格について考える。 ・　性格を表す言葉の意味を確認する。 ・　チェックシートを用いて、自分の性格や傾向に当てはまるものを選ぶ。 ・　当てはまるものから、特にそうだなと思う５つを選び、理由とともにワークシートに記入する。
第４時 （本時）	・　周りの人から見た自分の性格について知り、自分の性格を考えることができる。	○　自分が捉えていた自分の性格と周りから見た自分の性格を比べて、自分の性格を捉え直す。 ・　完成した自分のワークシートから、自分が捉えていた自分の性格と周りから見た自分の性格を比べ、共通点や相違点を知り、自分の性格を考える。

６　配置図



7　指導に当たって

・　「ぼくのニセモノ」に自己を投影させることで、自身の性格について言語化しやすくする。
・　自己理解を深めるため、小集団活動を共に行う仲間や家族、担当教員から、性格や傾向について客観的な助言を受けるようにする。

8　本時（全４時間中の第４時）

(1)　本時の目標

周りの人から見た自分の性格について知り、自分の性格を考えることができる。

(2)　見取りの観点

ア　自分が捉えていた自分の性格と周りの人から見た自分の性格について比べ、共通点や相違点に気付くことができる。（発言、ワークシート）

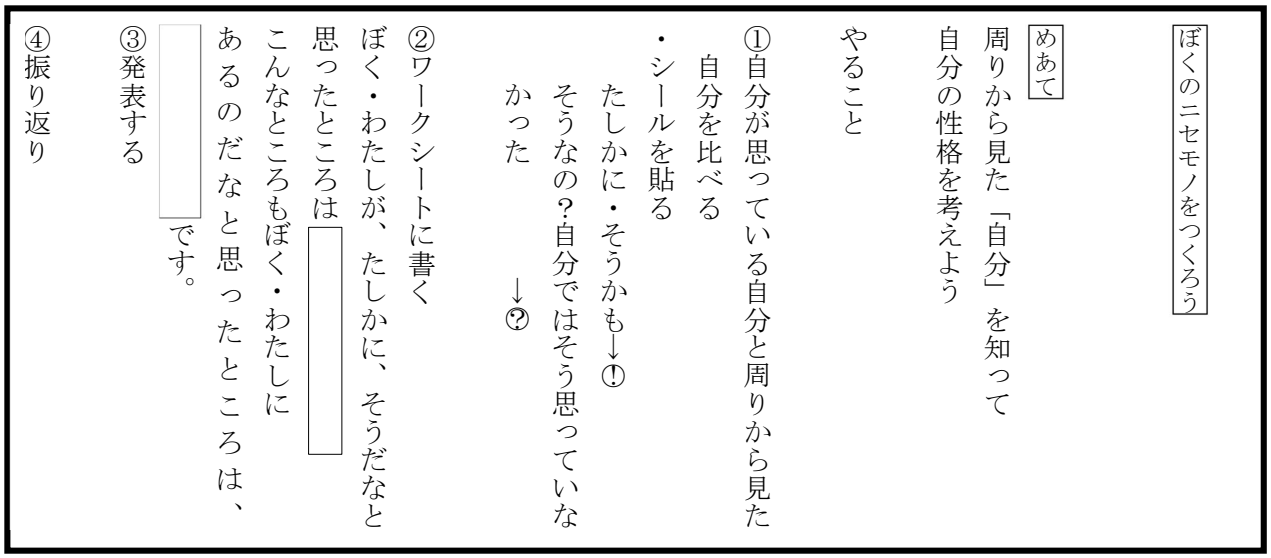
イ　自分の性格について考えることができる。（発言、ワークシート）

(3)　本時の展開

時間	学習内容・学習活動	●　設定理由 ・　指導上の留意点 ◎　見取りの観点
導入 ５分	・　始まりの挨拶をする。 ・　前時の振り返りをする。 ・　本時の活動内容とめあてを確認する。 〈めあて〉 周りから見た「自分」について知り、自分の性格を考えよう	●　学習規律の順守 ・　前時まででどのように絵本を作ったのか確認する。 ・　絵本の読み聞かせを行い、内容を確認し、活動の見通しがもてるようにする。
展開 20 分	・　自分が考えている「自分」と周りの人が捉えている「自分」について書かれたものを比べる。 ・　シールで分類する 確かに・自分もそう思う→① そうなの？思っていなかった→⑦ 周りの人に書かれて一番嬉しかったところ→◎ ・　ワークシートの空欄を完成させる。 「僕がたしかに、そうだと思ったところは［　　］です。」 「こんなところも僕にはあるのだなと思ったところは［　　］で	・　教師がやり方の見本を見せ、見通しがもてるようにする。 ・　比べてみて、感じたことを表現できるように、まずはシールで分類する。 ・　自分の良いところを認めることが難しい児童が、自分のよいところに目を向けられるように、一番嬉しかったところも選ぶようにする。 ◎　ア ・　シールで分類した中で、特に自分もそのように思ったところ、自分ではそのように思っていなかったけれど、そのようなところもあると受け入れら

	す。」 ・　発表する。	れる部分を選ぶようにする。 ・　ワークシートをプロジェクターに映してお互いのワークシートが見合えるようにする。 ◎　イ
まとめ ５分	・　それぞれ学習の振り返りをし、ワークシートに記入する。 ・　振り返りの内容を発表する。 ・　終わりの挨拶をする。	◎　イ ・　児童の頑張りや良かった部分を褒めて、価値付けする。

(4) 板書計画



(5) 授業観察の視点

・　自己の得手・不得手や性格を捉えるために、絵本を使い、「ぼくのニセモノ」に自己を投影させることは効果的であったか。
・　小集団活動を共に行う仲間や家族、担当教員から、性格や傾向について客観的な助言を受けることで自己理解を深めることができたか。